

自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立勝呂小学校
実施日	令和3年1月

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・組織として機能するよ体制が構築されてきている。 ・学校だよりを月に複数発行し学校の教育活動を保護者に説明している 教育の理想と感染症対策のはざまで厳しい1年だったが、計画立案には部会ごとに検討する時間を確保する必要がある。	A	・教職員は子供のために協力して活動に取り組んでいる。 教育目標や年度の重点課題が明確にされており特色のある内容を実施している。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・組織的な対応で、事故等を最小限に抑えることができたことから、教職員の組織力を感じた。 ・危機管理マニュアルや緊急連絡体制の見直し、更新とともに、学校で発生することが考えられる事故等への対応する研修・訓練を頻繁に行っている。	A	・感染症対策等課題が山積している中で管理職と教職員が協力して子どもたちのために活動している。 ・一昨年の台風19号襲来の時等、勝呂小が体育館を地域の避難場所として開放し、先生方も対応していた。これは賞賛すべきである。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・働き方改革を意識していく上で、業務の分担や分業など、体制を考える必要がある。 ・学級事務作業や放課後の会議、研修等、効率化等を図り、勤務体制の改善を推進していかなければならない。	B	・働き方改革を意識した取り組みが大切なので、趣旨にのっとり、教職員がお互いに協力して勤務の調整を行ってください。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	・計画した少人数指導等ができなかった部分もあったが、学年の意向も尊重しながら、学力向上のために授業形態を工夫して実施することができた。 ・県学力学習状況調査分析の後の学年や教科部会での検討を積極的に行う必要がある。	B	・学力向上に対しては、学力学習状況調査結果が県平均を下回っているため、児童の学力の向上には、さらなる工夫が必要かと思えます。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・人権週間の取組を通して、豊かな心を醸成することが出来た。 ・感染症対策で例年通りの学習形態が取れない中でも、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業について工夫し、試行錯誤しながら実践した。	A	・子どもたちの表情が良く、日ごろの様子を見てみると目標は達成できていると思います。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・挨拶や言葉遣いなど児童の個人差が大きい。学校での指導、教師が率先して挨拶する等とともに、実態を保護者にも伝えていかななくてはならない。 ・「勝呂小学校 授業10の約束」を教室に掲示意識させることで、子供たちは規律ある態度で授業に臨めるようになった。	B	・あいさつ運動などよく取り組んでいて、あいさつする児童は多くなってきていると感じます。 ・子どもたちのあいさつ等は大変良くやることそうでない子の個人差もあり改善の余地がある。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・定期的な倫理確立委員会、教職員事故防止のための研修やチェックリストの実施、資料の提供等があり、全校で共有できている。 ・不祥事防止のための意識啓発を、「校長室から」の通信や職集で随時行っている。	A	・管理職の努力で教職員不祥事・事故防止に取り組む、成果も出ていると思います。常にゼロを目指して取り組んでください。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	A	・子どもたちに寄り添い耳を傾け、保護者との面談を数多く実施してきた。今後もさらなる保護者との連携が必要である。 ・生活アンケートを基に、児童の悩みや相談を聞いて、問題を早期発見することができている。	A	・子どもたちの意見をよく聞き、発達段階に応じた取り組みを実践していると思います。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・担任同士が連携しながら、交流学級において児童の交流が活発に行われている。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、就学支援委員会が定期的に行われている。 ・今年度は夏季休業短縮のため、特別支援教育についての研修が行えなかった。	B	・特別支援教育のみならず、特別な支援、個別な支援を必要とする児童への対応もお願いします。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	・校舎自体が古いので修繕するのが難しい部分もあるが、月1回の安全点検が確実に実施されそれに基づいた修繕も行われている。 ・廃棄と購入を相談し合いながら的確な備品購入ができた。	A	・以前より環境整備ができています。管理職の指示が浸透していると思います。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	・ホームページは定期的に更新されており、防犯に関する情報はメール等を使って保護者に連絡を出している。	A	・学校ホームページなど定期的に更新されています。 ・教職員が協力して対応できていると思います。学校が明るくなりました。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・地域の見守り隊の方やSC、教育相談員さんの活用など、様々な方と連携し、児童の問題解決にあっている。 ・不登校については、SSWや臨床心理士など教育センターと連携して対応している。	A	・家庭・地域との連携が取れていると思います。特色ある学校づくりも含め地域連携を継続してください。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・今年度は、小中の教員同士の連携を持つことが非常に難しかった。 ・全児童が計画表を作成するスタディーウィークの実践により家庭学習意欲の高まりがみられた。	B	・勝呂小と住吉中の教職員交流として、授業の様子をお互い参観しあう等の取組を積極的に行ってください。